

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



金山寺のマツが植樹後7～8年でここまで育った。今年の伸びは30～50cmほど、これからの成長が楽しみだ。

Contents

- おおさか「山の日」創設 P 2
- 塩害地緑化の切り札? 胡楊の保護と増殖 P 3
- 夏のWT報告・森づくりの大切さをわかってほしい ... P 4
- 夏のWT報告・中国の温かい心にふれて P 6

2005.9

105

緑の地球ネットワーク、 毎日国際交流賞受賞！

第17回毎日国際交流賞を、GENが受賞することになりました。同賞は、市民レベルの国際交流・協力で優れた活動を顕彰して1団体、1個人におくられるもので、GENの地元に着したねばり強い活動が評価されました。

8月下旬毎日新聞の根本記者が大同を取材し、31日に右記の特集記事が掲載されました。表彰式と記念講演が、9月22日に毎日新聞大阪本社で開かれ、立花吉茂代表が講演します。参加ご希望の方はGEN事務所まで。



おおさか「山の日」 2005.11.12 創設

石原 忠一（NPO 法人自然と緑理事長・GEN 顧問）

大阪府は、府下の森林の機能を本来の姿に戻すため、府民が身近な森林の重要性を認識して、協働して森林保全にとりくむため、毎年11月を「山に親しむ推進月間」、11月第2土曜を、知事が先頭にたち多くの府民が森林保全活動に参加するおおさか「山の日」とし、「大阪山に親しみ森づくりを推進する実行委員会」を依嘱して、9月から広報に入ります。

13年前、'90.02.15、大阪で「森林が

無くなる 守ろう、暮らしと地球環境」を、依田恭二実行委員長で、元環境庁長官大石武一さんの「かけがえのない命の森を守ろう」の基調講演をうけ、600人の参加で成功させ、依田委員長は、これを単発で終わらせずつづけていきたいとまとめられました。

その5月、緑の地球ネットワークが第1次緑化協力団を山西省の黄土高原へ送ることになり、私が団長をつとめました。帰阪後、日本の森林の荒廃を

は大きな成果を上げ、条約批准と国内法の改正が進みました。自然と緑の「自然大学」も'95.09.10に開かれ、また、滋賀県馬ヶ背国有林で森林管理実習もつづけられます。

'97.12月には京都議定書が採択され、'90年を基準に6%削減が義務づけられます。この間にもCO₂濃度は上昇をつづけ（グラフ）、'58年からマウナロア山で測定値を発表してこられたチャールズ・キーリングさんは'05.06.20に逝去されましたが、わが国でも'87年から岩手県綾里での観測がつづきます。

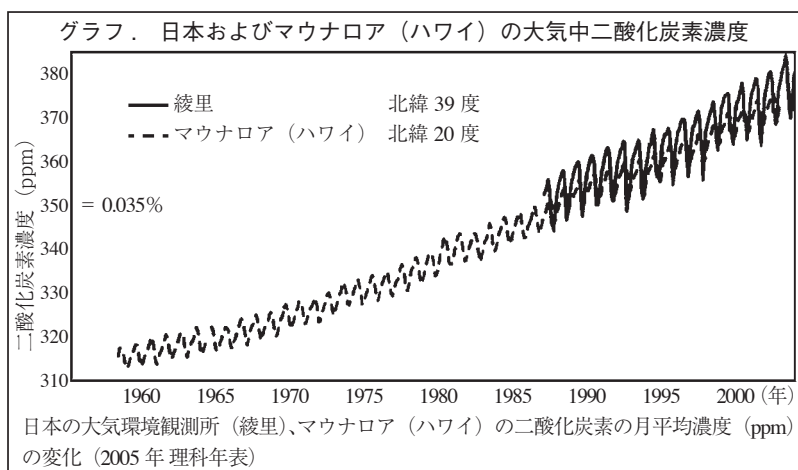
1964～74年の国際生物学事業計画（IBP）の成果で森林が地球上の生物量（炭素）の90%を貯えていることから、CO₂の吸収源とまとめられました。

京都議定書の発効（'05.02.16）にともない、大阪府も、9月議会に関係条例を提案します。

この度のおおさか「山の日」をきっかけに、府民参加の新しい森林保全の歴史がひらかれるよう、皆さまのご協力をお願いして、第一報とします。ご意見をお寄せください。

【おおさか「山の日」ホームページ】

<http://www.pref.osaka.jp/midori/yamanohi/index.html>



緑の地球ネットワークは認定 NPO 法人です。寄付金が優遇税制の対象になります。

緑の地球ネットワーク（GEN）が国税庁長官の認定を受け、税制上の優遇を受ける「認定特定非営利活動法人」になりました。有効期間は2005年6月1日から2年間です。GENへ寄付された方には税の優遇措置があります。

個人…「寄付金額－1万円」を所得

金額から控除できます。（確定申告が必要です。限度額は所得額の30%。）

企業…寄付金を損金として扱うことができます。（一般の寄付金にかかわる損金算入限度額と同額の枠があります。）

相続・遺贈による財産を寄付…相続税の課税対象になりません。（相続税の

申告期限までに寄付されたもの。）

税制上の優遇措置をえられるようになった機会に、ぜひ、みなさんのご協力をお願いいたします。賛助会員（年会費1口10万円）も大歓迎です（賛助会費のうち、12,000円をこえる部分を寄付金として扱います）。



塩害地緑化の切り札？

胡楊（コトカケヤナギ、*Populus euphratica* Oliv. または *Populus diversifolia* Schrenk）というのは、ほんとにおもしろい木です。原産地は新疆、甘粛など西方の乾燥地帯で、今年1月に放送されたNHKテレビ・新シルクロードシリーズ第1回の陰の主演でした。「胡楊三千年。生きて千年、立ち枯れて千年、倒れて千年」といわれる寿命の長い木ですが、開発と伏流水涸渇などに



注目の胡楊を増やして、植え広げたい。

胡楊の保護と増殖

よって原生地でも急減しており、保護の急がれる樹木です。塩害に強いこと、葉のかたちがさまざまに変化することなど、おもしろい性質を持つことから、日本の植物学者も注目しています。

そのポプラが大同県許堡郷の九梁窪林場でみつかりました。50年ほど前、試験的に導入されたようですが、その経緯はもう忘れられ、大同事務所の技術顧問、馬占山さんがその存在だけを記憶していました。成木は7本あり（うち少なくとも2本がメス）、周囲に若木も育ちつつあります。

昨年9月、少し種をとり、環境林センターの温室に蒔いたところすぐに発芽し、いまでは最大1.3mに育っています。

樹木の下草地はヒツジの放牧のために芝生のようになっていますが、少し離れたヒマワリ

畑にかなりの数の小苗がみつかりました。昨年の種が芽生えたものです。ことしはたくさんの種がついています。ヒツジの放牧から守れば、天然更新もはじまるはずですよ。

九梁窪林場の同意をえて、周囲1haほどを有刺鉄線で囲うことにしました。その1週間後には種が飛びましたから、最高のタイミング！9月に観察すると、かなりの数の小さな芽生えがあります。でも、まもなく現地は零下の世界。こんな小さな芽がどうやって越冬するのでしょうか？

大同の周囲にも広大な塩害地があります。くりかえし緑化を試みっていますが、なかなか成功しません。胡楊は塩害に強いようですから、将来が楽しみです。（高見）

GEN 学習会

土・水・木から見た 中国の環境問題

1992年にはじまったGENの緑化協力をまずはばんだのは、粒子の細かい黄土でした。植え方を工夫してこの問題はのりこえましたが、水問題は深刻化する一方です。

14年にわたる活動からみてきた中国の環境問題を、GENの緑化協力の現状をまじえてお話しします。

- 日時：10月7日（金）18時30分～20時30分
- 場所：大阪市立総合生涯学習センター 第2研修室（大阪駅前第2ビル6階）
- 講師：高見邦雄（GEN事務局長）
- 参加費：700円
- お問合せはGEN事務所まで。

ラジオ放送のお知らせ

FM COCOLO（76.5MHz）“On the Move”に高見事務局長がゲスト出演します。放送は9月25日（日）朝8時～8時30分。近畿にお住まいの方はぜひ聞いてみてください。

GEN 自然と親しむ会

京都の奥座敷一京北で 1泊の自然観察会

たまにはじっくり時間をかけて自然観察をしてみましょう。泊まりがけの自然と親しむ会を企画しました。お申し込みはいますぐGEN事務所まで！

- 日時：10月15日（土）13時～16日（日）12時40分
- 場所：京都府立ゼミナールハウス（京都市右京区京北下中町鳥谷2番地 URL <http://kyosemi.or.jp>）
- 講師：立花吉茂さん（花園大学客員教授、GEN代表）
- 参加費：一般＝6,500円、大学生＝5,800円、高校生＝5,500円
1泊3食（夕・朝・昼）、保険料を含む、会場までの交通費は含まない。
- 集合：ゼミナールハウス3階 401ゼミナール室
- 交通：JR京都駅から西日本JRバス周山行で終点「周山」へ。「周山」から京北ふるさとバスで「ゼミナールハウス」下車すぐ。

※雨天実施

※自家用車ご利用の場合、ゼミナールハウスに駐車場があります。
※申込みいただいた方には詳しい案内をお送りします。

GREEN なんでも勉強会 シベリアのタイガを訪ねて

2004年7月、小川さんは中央シベリア高原の永久凍土地帯のタイガを訪れました。落葉広葉樹林、凍土の様子、凍結したマンモスなどをたくさんの写真を見ながら報告していただきます。GENの協力地、中国山西省大同市のはるか北にひろがるタイガ地帯の自然について、興味深いお話を聞けることでしょう。

- 講師：小川房人さん（大阪市立大学名誉教授、植物生態学）
- 日時：11月25日（金）18時30分～20時30分
- 会場：弁天町市民学習センター第2研修室（JR大阪環状線、地下鉄中央線「弁天町」下車、オーク200 7階）
- 参加費：700円

森づくりの大切さをわかってほしい……

夏のワーキングツアー日誌から

今夏の GEN 黄土高原 WT は、26 名が参加して 7 月 30 日～8 月 6 日に実施されました。今回は社会貢献の一環として黄土高原緑化協力活動への参加を検討する企業数社からの参加があり、普段とは少し違った年齢構成になりました。行く先々でいざ作業というときに雨が降りだし、植樹はあまりできませんでしたが、スケジュールはなんとか消化。雨の貴重さを実感し、黄土高原の実情を、良い面も悪い面もみてもらえたと思います。恒例のツアー日誌から、一部を紹介します。

●7月30日(土) くもり 大同一時嵐

チャーターバスで一行 20 数名北京を出発、もう少しカラッとした暑さだと思っていましたが、大阪と同じ。2003 年 11 月に通ったことのある道でしたが緑が濃いのに驚き感心しました。緑化の努力も感じます。それにしても毎年雨だのみの繰り返しで、農民も気苦労の多いことかと思えます。

バスは順調に長い坂道を大同に向け走っていましたが、大同方面から龍が立ち昇るように黒い雲といなづまが発生すると同時にバスまでエンジンから黒雲をはき出し、高速道路のすみに待機するはめになりました。大同市約 50km 手前とか。

18 時ごろから風雷雨の中、待機続行。19 時すぎ高見事務局長一行が迎えにきてくれました。感謝！ 約 1 時間後、ようやく代替迎えのバス到来、安心。

何度かこのツアーに参加している人たちは「あまりに順調に走ってきたのでおかしいと思った」と口々に言っていました。何かなければこのツアーの意義が薄れるようです。

21 時 25 分、夜のとばりもすっきりおりた頃、今日の宿泊地、雲崗国際酒店にたどりつき、事務局関係者の暖かい出迎えをいただき楽しい気分で夕食

会にのぞみ、思い出多き 1 日をしめくりました。

あえぎつゝ 黄土高原すみ行く
深き緑の明日を夢見て

(開本孝昭)

●7月31日(日) 晴れ 時々雨

10 時 20 分頃、陽高県の大泉山村に到着。村民の熱烈歓迎を受ける。地元幹部の紹介の後、作業に入る。今日の作業は“アブラマツ”の補植で、高見さんから“ムレスズメ”も植えてあるので誤って抜かないよう注意を受ける(そういえば昨年夏のツアーで“ムレスズメ”を“グレスズメ”って言ってた人がいたっけ……)。作業は昨夕の雨のためか比較的ほりやすかったので、だいぶはかどった。初参加の人たちがはりきって作業をしていたので、経験者としては静かに見まもり、写真に専念する(けっしてさぼっていたわけではないです)。それにしても地元の人は土をかぶせた後に必ず足でふみ固める。遠田先生は絶対ふまないように言っておられるのだが……。 (岡垣誠一)

●8月1日(月) 晴れ

遠田先生のご指導により、アブラマツの苗木を植えましたが、残念なことに、今春に植林した苗木がほとんど枯れている現状を目の当たりにしました。

原因は苗木の根のビニール袋の底を破らずに植林していたことだそうです。せっかくの労働と苗木が台無しとなり残念ですが、それよりも残念なことは、村民の方々が苗木(植林)の性質を理解してくれていないことでした。どうか森を育てるということの大切さを、もっとわかってほしいと願います。

後半はいよいよ農家での

ホームステイ！ マーマの作ってくれる食事はどれもおいしく、何よりも笑顔の素晴らしいことが印象的です。中国で暮らす人たちがこんなに物資を大切にしているのに、日本ではあまりにも物が多く、しかも無駄使いをしている現実をあらためて考え直そうと思いました。

小学校の子どもたちも元気いっぱい、手を引かれるままにダンスやゲームに参加させてもらいました。久しぶりのハンカチおとしには、年令を忘れて猛ダッシュしてしまいました。身体を動かすのはいいものですね。

紙のうえで書くことはとても簡単ですが、少しずつ少しずつ、共通の目的を大切にしながら、日本と中国が協力して、この環境林が素晴らしい森林になることを願っています。(福井喜久子)

●8月2日(火) 晴れ

昨夜の星空はとてもきれいでした。流星もたくさん流れて。もしトイレにいて、流星を見上げたとしたら、トイレに真っ逆さまに落ちたことでしょう。人間には重心があり、地球には重力があることをあらためて実感しました。

ほとんどの方には知っていただけたかと思いますがジーンズの話です。

あのデニムは、中学校 1 年の頃に買ったものです。かれこれ 8 年はいっていたので、穴があいていたのです。これを見かねたホームステイ先のおばあちゃんが繕ってくれたのです。針を通してもらっている間、何度も膝を針で刺されながら、自分のおばあちゃんにこんなことしてもらったときあるのかな……なんて思いながら、おばあちゃん(ホームステイ先)の純粋な瞳、しぐさ、笑顔に涙を誘われました。

以前 1 ヶ月上海に行ったときや、旅行したときなど、自宅に帰ったときに、あの日々は夢のようだったなあ、もし



ビニール袋を破らずに植えたマツを掘り出し、植え直した。



小学校で縄跳び。真ん中がジーンズを繕ってもらった阿部くん。

希望を持っていればそこに何らかのきっかけがあれば変化することができるはず。これは何不自由なく暮らす私たちにも言えることではないかなと思いました。あきらめないで希望を持つこと、夢を持つこと!! これからもずっと忘れずにいきたいなと思いました。(山村恵美)

●8月5日(金)

かして夢だったのかな?と思います。今回、おばあちゃんがぬってくれたジーンズを見ると、証拠になると思います。あの日々は本物だ、現実だったのだと!(阿部大二郎)

●8月3日(水) くもり時々雨

昼食後、聚楽郷、采涼山の地球環境林に移動。ここは99年から緑化にとりくんだ所。小生も'99からGENのワーキングツアーに参加しており、'00、'02、'04と今回が5回目の采涼山。その生態系の変化と木々の成長におどろく。成長の良いマツを見ると、一昨年は25cm、今年は40~60cmも成長している。また、サージ(ヤナギハグミ)や草の繁茂にもおどろく。99年には、草はわずかで、ほとんど黄土であったのが、遠目には黄土を見ることもできないほど草が繁茂している。リピーターのメンバー(佐々木、岡垣、小生)で参加しつづけてよかったネと若干感動する。(中略)思い起こしてみると我々が大同に来て、雨が降らなかった日はない。よほど雨男雨女の集団であろうか?日本では「あいにくの雨」と天気予報では言うが、大同では「幸せの雨」というのであろうか?だとすると我々は「幸せを運ぶ人びと」ということになるのだろうか。(藤原國雄)

●8月4日(木) 晴れ時々雨

作業終了後、ビデオを見て、帰りのバスの中で高見さんの話の中の一言にとっても心を打たれました。「貧乏はこわくない。貧乏だからしょうがないとあきらめてしまうのが一番こわい」という言葉です。あきらめてしまったらそこには何も生まれない。小さな小さな

北京観光。北京原人の発掘現場を見に行くか、故宮を見て、中国人民抗日戦争記念館に行くか迷ったが、抗日戦争記念館を見に行くことにした。

(中略) 中国人民抗日記念館はとても広く大きな建物だった。次から次へと中国人が出入りしていて、入るのが少しこわかった。中には写真や武器が並んでいた。中国語はまったくわからないけれど、どれだけの死者が出たのかはわかったし、日本について書かれているのもわかった。すさまじい写真・映像があって、それを見て、私は日本軍による虐殺があったのは知っていたけれど、全くそのことをわかっていなかったんだと思った。今まで知っていたことと記念館で展示されていることには、大きなギャップがあった。

記念館の資料がニセモノという人もいるということを後で聞いた。私にはどれが本当でどれが嘘かなんてわからない。記念館に来ていた人(小さい子から老人まで)のほとんどは抗日戦争記念館の展示内容を過去にあったこととしてとらえるんだろう。中国人が知っている抗日戦争の内容を日本人が知らないことが問題だと思う。中国語を少しでも読めるようになって、もう一度中国人民抗日戦争記念館に行きたいと思う。(中村未来)

●8月6日(土)

「首尾よく木を植え森を取り戻せたとしても、水が増えるとは限らない」という遠田先生の言葉はずしりと響いた。ツアーに参加する前、漠然と「大同に森が戻れば、地元だけでなく北京の水不足も緩和されるのではないか」とい



う水源涵養的なイメージを抱いてた。そんな甘さを吹き飛ばされて、半分がっかりしたのは否めない。しかし、植樹が順調にすすめば、水土流出の歯止めになるだろうし、一時の大雨の被害を減らす効果は期待できる。それだけでも大きな成果だ。ひょっとしたら一時的な「水がめ効果」で地下浸透を促進し地下水の枯渇を緩和するかもしれない。今後の検証を待つしかないが、期待をつなぎたい。

(中略) 大同に戻ると、陽高県や天鎮県には、木陰の涼しさなど日本の軽井沢を思わせる夏の高原の雰囲気があった。10年もして緑陰が豊かになれば(安全な水が一定量確保できればの話だが)、北京の避暑地として地元にもメリットある形で開発できるのではと、夢を描いてしまう。循環型水処理を備えたペンション群と地元野菜の市を中心としたマーケットを組み合わせれば、負荷の大きくない避暑地が実現できるかもしれない。武さんのアイディアはいい線行っていると思うがいかがだろう。(浅野千明)

黄土高原ワーキングツアー参加者 合同同窓会のお知らせ

～旅の思い出を語り合いませんか?～

●日時: 11月26日(土) 17時頃～

●場所: 大阪(詳細未定)

2000年以降のツアー参加者には詳細を後日メール・はがきなどで連絡します。

GENのツアー参加者はもちろん、労組などのツアーに参加された方もどうぞ! ツアー参加者でなくても興味のある方はぜひご参加ください!

【連絡先】

八木丈二 TEL. 090-1713-1260 e-mail: george.wtr@s6.dion.ne.jp または

石原務 TEL. 072-222-2167 e-mail: i1480@luck.ocn.ne.jp

みなさんの参加をお待ちしています!

中国の温かい心になれて

渡部 康子（東日本興業労組）

7月19日～26日、東北電力総連の緑の協力隊15名が待ちに待った大同訪問をはたしました。この団は大同に6月はじめ以来の恵みの雨をもたらし、道路事情によりホームステイが中止になったのは残念でしたが、代わりに環境林センターでバーベキューを楽しみました。お寄せいただいた感想を紹介します。



らしい体格の子どもたちが中学生だったのには驚きました。体操着も靴も泥まみれで、靴がないのかサンダルで植林作業をする子どももいました。それでもみんな元気で笑顔が絶えないのには感心し、日本の子どもたちは恵まれているなあと思いました。

4月に予定されていた第12次緑の協力隊は、中国での反日デモの影響で延期になってしまいました。仕切り直して7月19日、まだ見ぬ異国の地に期待と不安を抱えながらいざ中国へ……。

大同で子どもたちと一緒にマツの苗木を植えたのですが、日本の小学生ぐ

大同では雨が少ないため、水がたいへん貴重です。私たちの滞在中雨が降って、現地の人は大喜びでした。「あなたたちは植林にきてくれただけでなく、雨もつれてきてくれた」と。日本では雨が降ると憂鬱になりますが、現地ではすごく喜ぶのです。この光景を見て、

日本は本当に恵まれていると実感しました。

最も印象に残ったのは、中国の人は情が厚く、とても温かいということです。私が体調をくずして寝込んだ時もずっとつきそって、様々な薬を持ってきてくれたり、体を冷やしてはいけないと温かいペットボトルを何本も持ってきてくれたり。最終日まで、どこに行くにも体調を気遣ってくれて……。その優しさに感激した私は、布団の中で涙し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私がこの緑の協力隊に応募した動機は、24歳の誕生日を迎えるにあたって、自分にも何か世のため、人のためにできることはないかと思ったのがきっかけでした。しかし、実際現地に行き植林をしてみると、自分が学ぶべきことはまだまだあると考えさせられた1週間でした。物や水を大切に作る心、人を想う温かい心をもつ人びとと接して、今の自分の小ささを実感しました。そしてこれから生きていく上で、この貴重な体験をもとに、私をとりまく環境をみなおし、1人でも多くの人にこの体験を伝えたいと思っています。

黄土高原史話〈26〉

よもや墓碑などあるまいが

谷口 義介（摂南大学教授）

「せめて年1度、黄土高原の土にまみれて」と念じつつ、今年は春・夏ともツアーに参加できず。植樹作業より、むしろ土器など拾えなかったのが、ちょっと心残り。

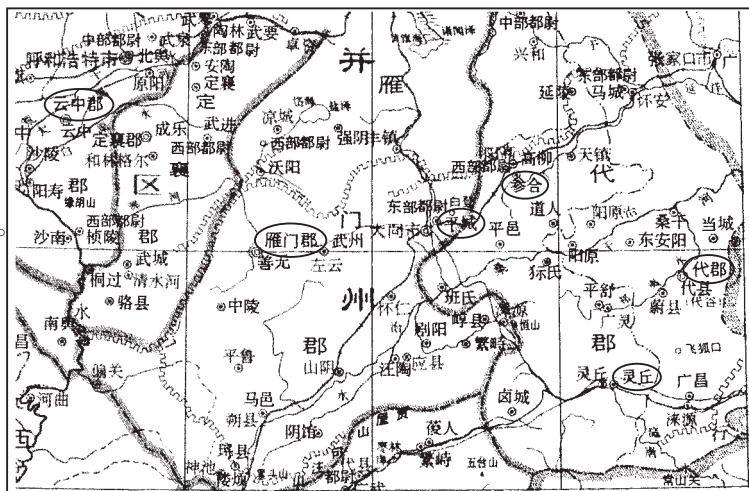
そんなわけで今回は、紙上で曾遊^{そうゆう}の地の再訪を。2000年以上も前の話だから、史上探訪というべきか。

ちょうどB.C.200年、白登山の大包圍作戦で、漢は匈奴に屈辱的な和約。冒頓^{ぼくとん}単于は兵を引いてくれましたが、高祖劉邦は兄の劉喜（仲）を代王に封じ、代国（雲中・雁門・代の3郡53県）の統治を委ねます。親戚をたのんで、いわゆる同姓諸侯の封建ですが、この

劉仲は明らかに人選ミス。漢が成立するまで、戦さのことはかわらず、郷里でひたすら田を耕してきた農夫です。しかも封地は、匈奴と境を接する防衛上の最前線。劉仲にこの要地を守りきる

才幹など、望むべくもありません。おりしも、匈奴の將軍となっていたのが百戦錬磨の韓王信、代・雲中の両郡に攻めかかれば、劉仲あっさり国を棄てて逃げ戻る。

しかし、高祖に危惧はあったとみえ、



有能な陳豨^{ちんき}を代国の相に任じ、かつ將軍として兵を統括させておきました。これにより、辺境の兵権はすべて陳豨に属します。ところが何と、これが裏目。やり手の男には、往々にして野心家が多い。千金を散じて客を集めたり、不法行為も少なからずあったとか。ただしこれは政府筋からの情報、見方によっては魅力ある人物です。

韓王信が部下をやって謀反をすすめたとも、陳豨の方から内通したとも、資料によってまちまちですが、両者の間に連携が成立。B.C.197年、陳豨は自立して代王^{うつ}に。ちなみに、本拠の代郡代県は今の蔚県、平城（大同）の数キロ東南東です。

これに対して漢の高祖、もと犬殺しの猛将、鴻門の会で勇名を馳せた樊噲^{はんかい}を急派して、代・雁門・雲中の諸城を抜きますが、塞外までは兵を出さず。匈奴を刺激しないように、との配慮です。それを知って韓王信は、匈奴の騎兵を率いて参合の地に抛り、漢の猛攻を防ぎます。しかし戦い利あらず、降伏を拒否して、見事な最期。時にB.C.196年の春まだし、参合とは現在の陽高県に当ります。

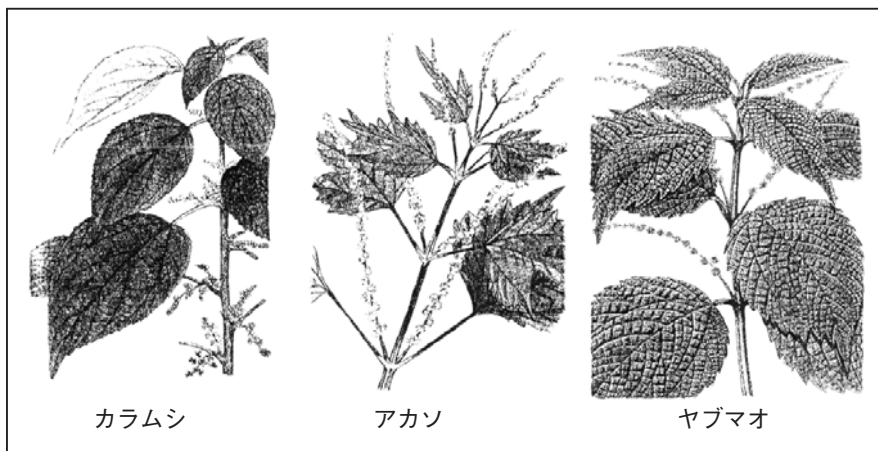
一方、同年の冬、もとムシロ織り職人で葬式の笛吹き、今や大尉（軍政長官）の周勃^{しゅうはく}は、太原より入って代の地を平定。翌年、陳豨を霊丘に撃って、これを斬る。一説によると、樊噲の軍卒が陳豨を霊丘まで追って、これを斬った、とも。

漢の北辺支配は、対匈奴和親策もあり、これより安定に向うわけですが、韓王信・陳豨が最期をとげた陽高・霊丘の両県は、GENの植林ツアーでなじみの地域。

拙文は、次回訪問のおりのご参考までに。

植物屋のこぼれ話（続編）その5

立花 吉茂（GEN代表・花園大学客員教授）



カラムシ

アカソ

ヤブマオ

野生の有用植物

●ケナフはいらない

ケナフを育てれば樹木を伐採せずにもすむからと、この栽培を奨励している人たちがいるが、10年以上も前からこんなことはやめた方がよい、と筆者は主張してきた。その理由はアメリカの広大な圃場で栽培されたが紙作りには採算があわず中止、狭い日本で栽培しても消費する紙の量からみてケタ違いでお話にならないこと、光合成能力が高いから空気浄化に役立つなどの理屈は、全国森林で埋められている日本では、草本植物と樹木では浄化能力が比較にならず、これもケタ違いでお話にならないことである。このような発想をする日本人は、わが国が世界の先進国の中でケタ違いに緑の多い国であること、自然度の高い国であることをご存じないからであり、都会を離れて山野に入るとケナフよりもすばらしい繊維植物がゴマンと野生していることをご存じないからだろうと思う。

●山野を歩こう

野の道を歩く、という NHK 文化セ

ンターの仕事をするようになって浅い山や里道を歩き回ってみると本当にたくさんの有用植物が生えていることに驚く。昔は使ったが今は雑草となってしまった植物も多い。樹木ではリュウキュウハゼが河川や土手や浅い山にエスケープしている。これはローソクが作れるから昔栽培した名残りである。コウゾやミツマタは今でも和紙づくりに活用されているが、大部分は放置されている。野生のヤマゲタ（山桑）は非常に多く山道に生えている。カジノキは少ないが場所によっては多数生えているところもある。九州では海岸に野生のフヨウがあり、この皮は剥ぎ取りやすく、ビーダナシという織物製品が作れる。草ではもっとも多いのが、マオ、ヤブマオ、カラムシの類である。ここに挙げたものはいずれも繊維植物であるが、繊維のとれるものは全て紙が作れる。

●カラムシを活用しよう

野の道を歩くと田畑のエッジや土手に必ずといってよい程カラムシがある。これは昔栽培したものが逃げ出して雑草化しているのである。苧麻（チョマ）、真苧（マオ）、ラミー、ナンバンカラムシなどの名前で中国から導入されたものである。この繊維は最高級品であり、一部で趣味的にリバイバルして、いろいろな製品が作られているようである。同属のヤブマオ、アカソなども戦時中には繊維植物として利用された。

写真パネルを新しくしました！

GENの黄土高原緑化協力を紹介する新しい写真パネルをつくりました。「写真展 よみがえる森～沙漠化が進む中国黄土高原と緑化協力」（枚方市民ギャラリー、9月2日～7日）で披

露、ボランティアスタッフのご協力もあって、たくさんの方に見ていただきました。従来のA2より一回り小さいB3サイズでコンパクトに。貸し出し希望の方はGEN事務局まで。

情報ひろば
いっしょなかたち

グローバルフェスタ
JAPAN 2005

「知る」から「行動する」へ
ミレニアム開発目標への挑戦

国際協力フェスティバルが新しくなりました。

NGO など約 200 団体の国際協力活動を紹介。屋台やステージなど、もりだくさんのイベントがあります。GEN も関東ブランチがブース出展するので、ぜひお立ち寄りください。

- 日時：10月1日（土）、2日（日）10時～17時
- 場所：日比谷公園（地下鉄「日比谷」駅、「有楽町」駅、「霞ヶ関」駅、JR「有楽町」駅）
- 入場無料
- 主催：グローバルフェスタ JAPAN 2005 実行委員会（TEL. 03-3546-1185 FAX. 03-3546-1165 e-mail : gffesta@jtbcom.co.jp）

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月 15 日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

<http://icf.visitors.jp> （株）ジェイコム内）

第7回
市民フェスタおおさか
ひろげようボランティア
つなごう市民ネット
共に行きよう多様ないのち

NPO、企業、労組などの活動紹介や、防火防災体験、ステージ、ガレージセールなどが企画されています。GEN も出展します。遊びにきてください。

- 日時：10月23日（日）10時～16時
- 場所：大阪城公園・太陽の広場（JR環状線「大坂城公園」駅下車すぐ）
- 入場無料・小雨決行
- 主催・問合せ：実行委員会事務局（大阪市ボランティア情報センター内。TEL. 06-6765-4041 FAX. 06-6765-5618 e-mail : ocvic@osakacity-vnet.or.jp <http://www.osakacity-vnet.or.jp/festival/index.html>）

編集後記

9月10日の関東ブランチでのツアー報告会、遠方からの参加者もあり、リピーター藤原さんによる采涼山のマツの成長記録報告など、とても充実したものだったそうです。「ぜひ記事をのせて」と写真も送ってもらったのですが、すでに紙面は満杯、ほぼ完成状態。詳しくは次号にゆずります。有志で企画中の11月のツアー同窓会（5頁に案内）にも、ぜひご参加ください。

4頁のツアー日誌で少しふれられていた、春にビニール袋を破らずに植えたマツが生着していなかったプロジェクトは天領県。まだ生きていたものは掘り出してビニールを破って植え直しました。以前から造林に関するトラブルが多い県ですが、ここの農民は大同でも指折りのいい人たちで、緑化にも真剣なのです。造林技術をきっちり現場に伝える責任の重さとむずかしさを痛感しました。（東川）